

マーサージャパン株式会社
今井 俊夫

第7回「コロナと資産運用」

「コロナと資産運用」

「コロナ後の資産運用はどうあるべきか」というご質問をいただきます。どうやら新型コロナウイルスとはしばらく共生を余儀なくされるようです。そうすると、見える世界はコロナ前とは大きく変わってきます。生活習慣を変えなければならないかもしれません。生活習慣が変われば経済のあり方も変わってくるでしょう。経済活動の果実をどう受けるか、資産運用のあり方を今一度見直しておくべきことは、当然の対応と言えます。

しかし、債券と株式への投資により、適切なリスクの下で必要なリターンを長期的に獲得しようという、基本的な枠組みまでコロナが破壊したということはなさそうです。保険取引の一部で、当初の取り決めのない事案への保険金支払いが発生するかもしれないという話は出ていますが、金融取引は原則としてルール通り行われ、金融市場は健全に機能しています。貸したお金に利息を付けて返してもらう権利が債券にあり、企業利益の分配を受ける権利が株式にあることは、コロナ後も変わっていません。

「世界の変化」をとらえることのできる投資は株式投資です。債券は、約束した利息を払えるか、貸したお金を期日に返してもらえるか、という過去の取り決めに関心がありませんが、株式は、これからなにをしたらもうかるか、という未来を向いた投資です。未来の姿を正しく描くことができれば、それを果実につなげることができるのです。テレワーク、遠隔医療といったテーマは突然現れたものではなく、コロナ前から想定されていた未来の一部ですが、コロナによって実現が早まったと言えます。実際、この未来の実現に資すると目される企業の株式は買われました。優れたファンド・マネジャーならば、「世界の変化」で未来の姿がどう変わるか、これをどのように次の果実につなげるか、考えをめぐらせていることでしょう。

資産運用はコロナでどう変わるのか。債券と株式への分散投資は維持しつつも、株式投資について考え直してみるきっかけになるかもしれません。株式投資は世界の変化を促すことさえできる、というのが最近の潮流でもあります。